

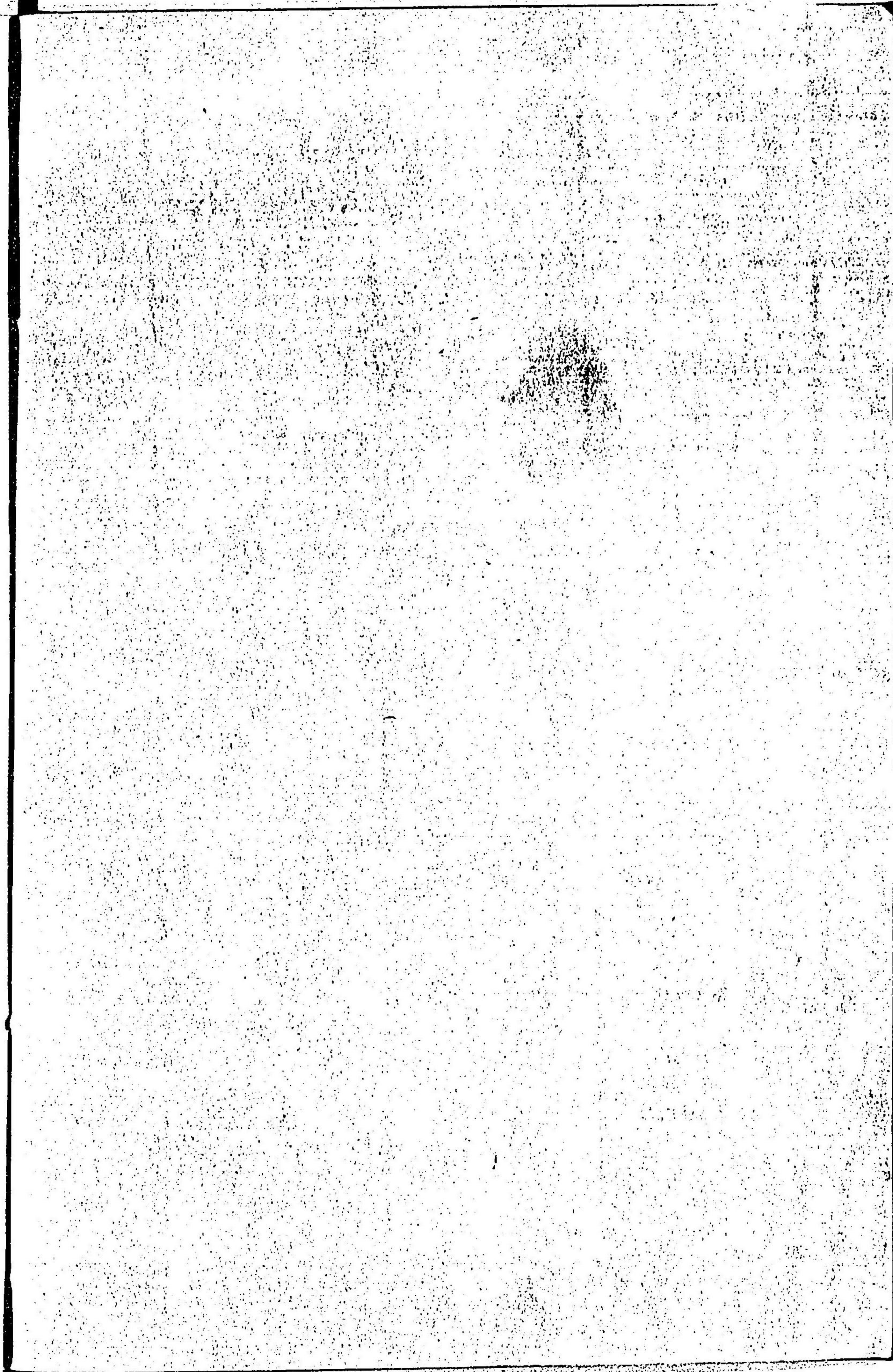
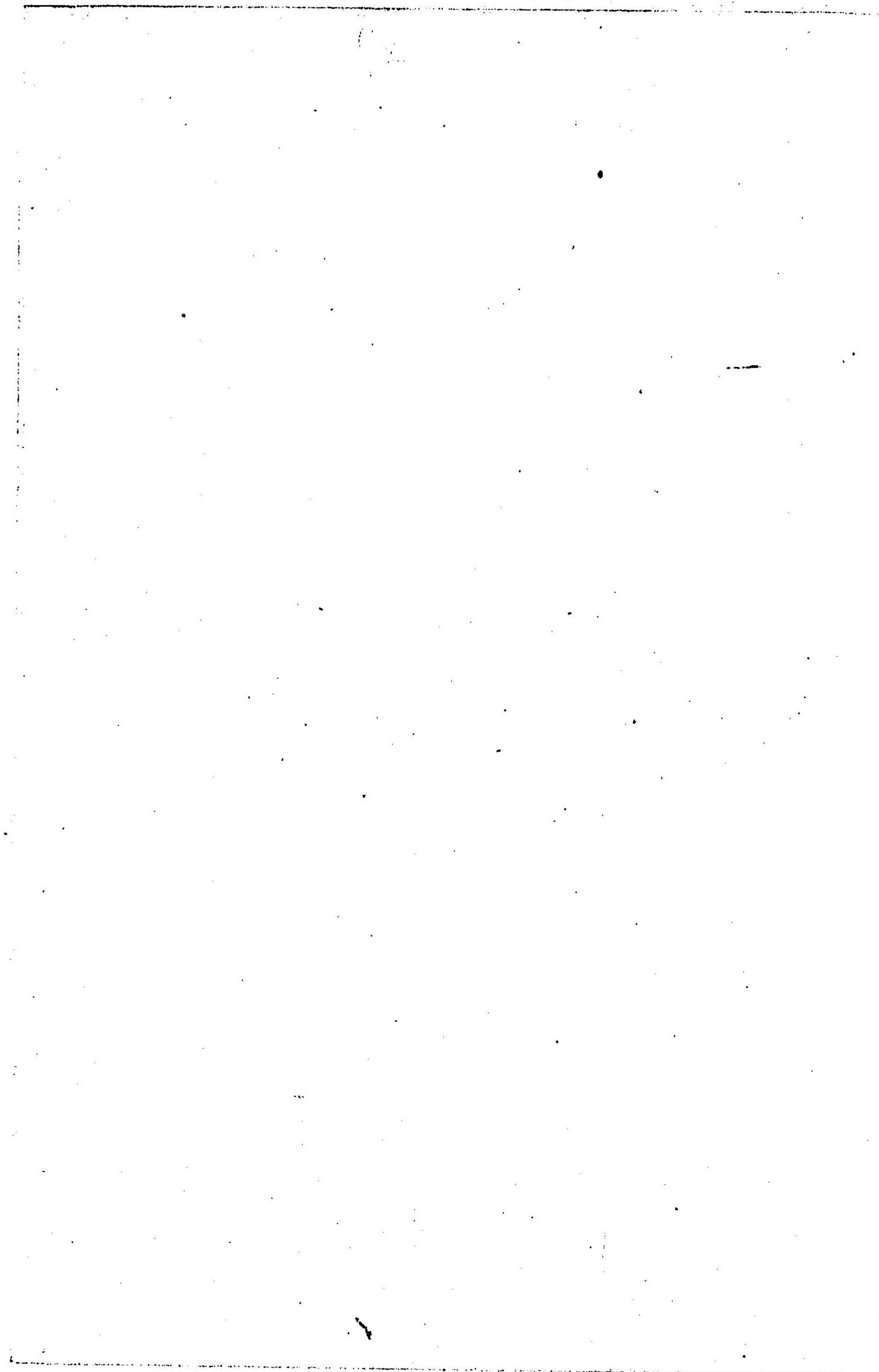
特42-

447

訂正
觀世流謠外
卷之番

恒吉翁
谷行
牛部
禪師
車傳

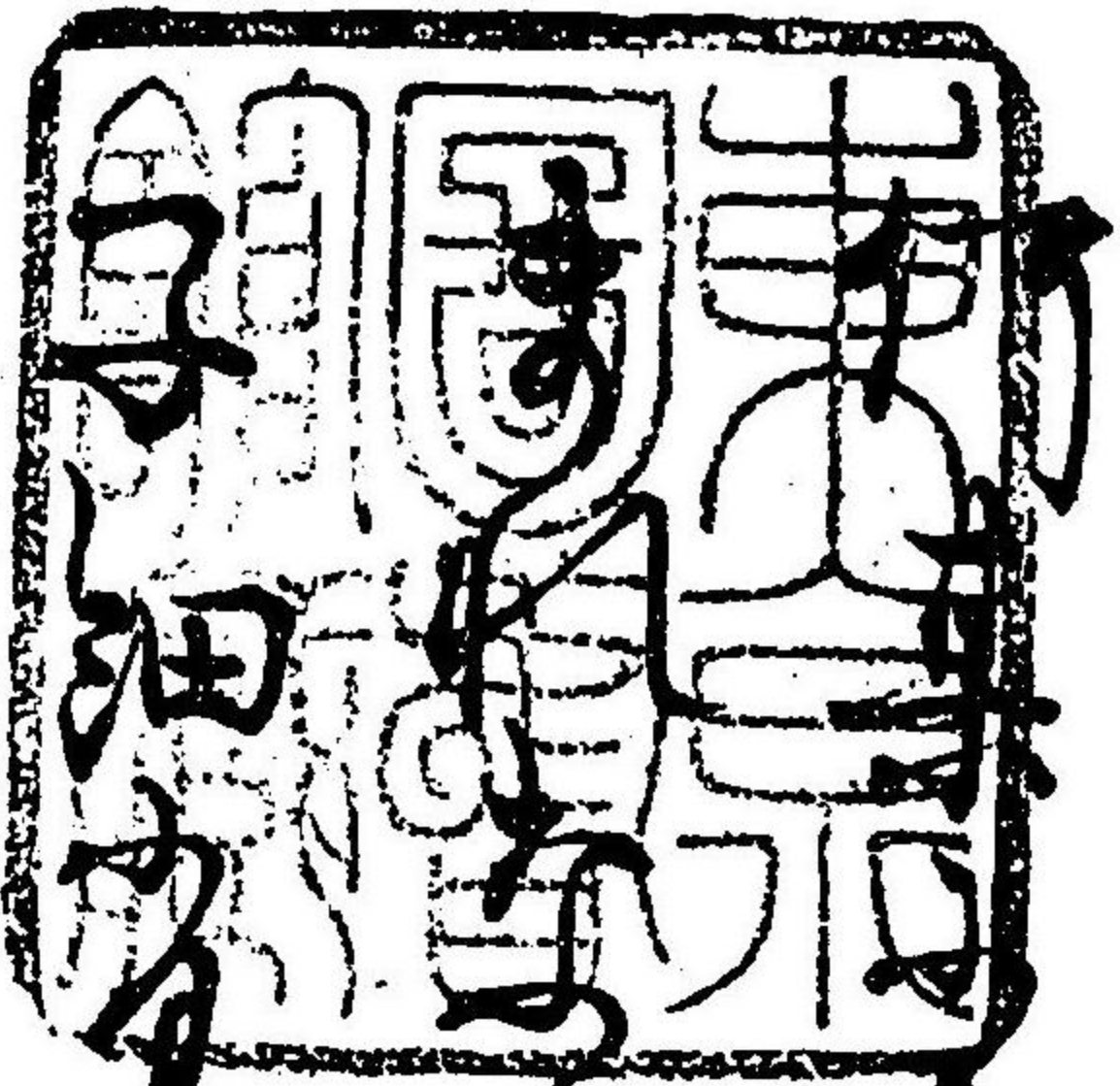
六



信吉翁



東洋銀行 東京支店 信吉翁



東京支店 信吉翁 東京支店 信吉翁 東京支店 信吉翁

人の神よたのこねらう終の言よ
まらう報の言よまらう耕^ハ茶^ハ茶^ハ
神^ハ奇^ハ養^ハ久^ハの^ハ天^ハ地^ハ開^ハ闢^ハ泰^ハ平^ハ
諸人^ハ收^ハ樂^ハ福^ハ壽^ハ衆^ハ滿^ハふ^ハ奇^ハの^ハ
終^ハや^ハ終^ハま^ハら^ハう^ハ終^ハの^ハ諸^ハ領^ハ出^ハ於^ハ皆^ハ
令^ハ儀^ハ人^ハの^ハ終^ハ也^ハ吉^ハ方^ハの^ハ終^ハ終^ハ
終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ

まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ
まらう終^ハの^ハ終^ハも^ハ終^ハく^ハ終^ハの^ハ有^ハ終^ハの^ハ神^ハ

世

日

長果ありて採りて
 月まじくまよひく毎の寝ありて
 浦舟の舟上出きて
 かぬ風をうきかへて
 波のつらさるるも
 疎きかへて
 まぬ浪のしらけ
 浦よきふきりく
 長果ありて採りて
 月まじくまよひく毎の寝ありて
 浦舟の舟上出きて
 かぬ風をうきかへて
 波のつらさるるも
 疎きかへて
 まぬ浪のしらけ
 浦よきふきりく

長果ありて採りて
 月まじくまよひく毎の寝ありて
 浦舟の舟上出きて
 かぬ風をうきかへて
 波のつらさるるも
 疎きかへて
 まぬ浪のしらけ
 浦よきふきりく

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、

の車ふちをたぐのほろり下るる
らあ母まゝ母影まぢのくやひる
の浦まづも存半一思ひまづわら
う那

谷行

是^甲の今熊野をまた木の坊
師乃阿園梨とト山伏まて作
柄も果芽を一人持てゆり皮
者乃穴空をまらう。母まらうみう
して作よ果の正し向よ巖入を仕
人ほらよ眼乞乃たぢ品今出京

はぬいた業口作子親子とて
 入甲そや作子通乃津出にて作
 よ甲が今よ松若行子とて
 寺子入り子らり信子白子ら子ま子ぬ子そ子ん子ん
 母津子の子母子れ子地子かん子信子ま子。其子ら子ん
 言甲語子通子断子。ゆ子ち子く子た子中子ら子乃
 事子さ子ぬ子存子せ子と子作子さ子ら子果子ら子ま子ら

たる由子ら子と子り子ん子ん子の子作子所子は子れ
 所子出子り子て子ら子地子方子と子戸子合子入子兼子
 也津入子と子ス子く子ま子ら子る子。其子ら子ん子
 松若子よ子ら子ら子ら子の子地子乃子中子等子
 作子る子核子よ子田子原子と子同子じ子地子
 各子若子ら子ら子ら子。津子乃子易子く子思子ふ子事子
 久甲根子と子り子た子ら子と子ら子と子同子

よ峯入を侍し復よ所服乞のら
にありて候 三宮と峯入とを
の大事乃行とを承て 甲 初者
松若も内佐とく候 甲 初者
の侍も入道とて 三 毎
りきたぬ 甲 三
の 子 三

ト 甲 三
若も入の所佐トは 三
 甲 三
 三 三
 三 三
 三 三
 三 三
 三 三

唯苗ちりく^子の母はあつたお
 くく^の河新の為よま^らふ
 まぬ^く作^早あ^らぬ^のさ
 と母河よ^りあ^らむと^おま^らく[△]△[△]
 し^まら^うて^作松若峯入^れ仕^きき^う
 ま^らゆ^られ[△]同^母河^の河^の河
 のち^とい^ひ雅^行捨^身乃^道と^申

べく^まよ^まら^く由^りて^冬
 河^新の^母は^あつ^たお
 の^まぬ^く作^早あ^らぬ^のさ
 松^若峯^入の^仕き^き
 河^新の^母は^あつ^たお
 の^まぬ^く作^早あ^らぬ^のさ
 松^若峯^入の^仕き^き
 河^新の^母は^あつ^たお
 の^まぬ^く作^早あ^らぬ^のさ
 松^若峯^入の^仕き^き

まゝのつとめはつとめをせむるに思
ぬ心さす入る。御恩もあまらぬ
任へ去る子もあはれな。身古御所
の道よせく母は親世となくと
思ひ立る事也と。母はくそ
たれを判受所道と母も悲た子
哀孝りの深むる御恩

つとめはつとめをせむるに思
ぬ心さす入る。御恩もあまらぬ
任へ去る子もあはれな。身古御所
の道よせく母は親世となくと
思ひ立る事也と。母はくそ
たれを判受所道と母も悲た子
哀孝りの深むる御恩

下
まゝにわらふのさかきやあまき
ふさかの高し山乃峯の雲暗
親乃思月まぢな好おはゆづにを
しつとこ 四廿二
かくて小童思月の印奉
入乃溪山伏の隙中藤懸苔乃夜
ま思の道夢入乃 かくたがり
と深きとろさ一唯孝乃神カに

下
馬ハあまきえうらにゆかひるは
そ守乃里教のげま乃のり
所乃げのま乃あゝあ
まきよれあまき
とれまらまら
のり乃の神教
三輪乃由乃のり乃

是のあつりぬ様のたう御さく
 日まに人書一からひの 建 相入由
 心易く作 記 したつてく下作書
 君殿様乃素外乃う一信られ候
 又の外より見入給ひての御さく
 大法乃こく谷行よ村新く御自
 ちぬそ 建 外にく是のたにく

ざうのたに(ま由戸あすたて
 んの戸作。ちよの松あり殿乃ち
 を書申て久の旗た素外と御
 へる今もまや又外よらるる御
 下作。御多手戸事になく
 ちよのたのた大屋さく(谷行
 よのいあすたにすたに一

子^甲の^甲行と松若を谷行す

妙^甲なる^甲中^甲なる^甲也^後は^甲も^甲

大法^甲なる^甲心^甲の^甲行^甲も^甲非^甲なる^甲也^甲

心^甲の^甲行^甲も^甲非^甲なる^甲也^甲

心^甲の^甲行^甲も^甲非^甲なる^甲也^甲

心^甲の^甲行^甲も^甲非^甲なる^甲也^甲

心^甲の^甲行^甲も^甲非^甲なる^甲也^甲

心^甲の^甲行^甲も^甲非^甲なる^甲也^甲

お根^甲の^甲邊^甲側^甲も^甲なる^甲者^甲と^甲入^甲谷^甲行^甲と^甲て

忽^甲命^甲と^甲考^甲ふ^甲る^甲是^甲も^甲一^甲と^甲なり^甲乃

大法^甲也^甲所^甲行^甲身^甲の^甲如^甲る^甲物^甲なる^甲行^甲の

命^甲乃^甲抄^甲の^甲如^甲る^甲と^甲思^甲ふ^甲る^甲也^甲

信^甲解^甲の^甲如^甲る^甲也^甲出^甲て^甲ら^甲る^甲を^甲捨^甲て

る^甲を^甲な^甲ら^甲む^甲也^甲又^甲な^甲ら^甲む^甲也^甲母^甲行^甲の

歌^甲の^甲如^甲る^甲也^甲又^甲な^甲ら^甲む^甲也^甲

歌^甲の^甲如^甲る^甲也^甲又^甲な^甲ら^甲む^甲也^甲

去。假。也。地。生。乃。縁。皆。人。不。
 所。公。跡。之。在。村。一。行。入。行。法。出。
 不。如。之。之。の。皆。聲。之。あ。け。候。不。
 心。之。心。之。長。行。了。甘。受。て。面。を。
 一。回。よ。長。行。の。一。寸。也。候。者。如。は。も。病。
 一。思。の。大。法。乃。も。今。ま。き。し。日。た。ま。へ。
 あり。ま。く。よ。答。行。よ。社。と。い。ふ。心。花。

甲。花。道。も。仰。身。付。舞。介。乃。中。の。心。も。
 何。と。い。ふ。か。如。く。又。の。心。を。く。れ。く。と。
 目。之。あ。や。あ。く。青。な。く。お。言。ひ。た。ま。は。れ。ぬ。
 又。ら。大。事。じ。も。身。を。残。た。ま。ひ。な。ぬ。心。を。
 新。く。さ。す。や。と。思。ふ。心。を。叶。り。ぬ。り。を。
 う。め。の。心。を。さ。す。心。を。あ。ら。わ。り。て。解。
 寺。の。心。を。さ。す。心。を。あ。ら。わ。り。て。解。
 寺。の。心。を。さ。す。心。を。あ。ら。わ。り。て。解。

邪よくあつたんごの致すまゝあ
 一切有為乃世のあらはれは多劫の
 如露如雷如雲如電は是くつと
 ちるまのたきひきるひるま
 の新しん者の道よの出あつた火宅乃
 口と法やうに種たねまらぬ二界にがい親
 お恩恵に致まらぬちかきり

葉はてて時刻じこくなつたての管面
 面よ思ひまじつ邪見乃親身しんを
 う心こころをあらはれ人をきりま
 不ふたてしまう命よおはる石瓦
 あつたつらたれをうたかたを
 了しやうりなまを管面よあふ
 たりくたりくまや目のたきり

為寺行立ちし金銀の儀
甲 畏備の好まざるを 老達乃所
 去なく見ゆ種之行と侍令言
 唯志して所より安 甲 為案して
 之所給之。我未都より安。彼者乃
 母より行と申す。可珍病氣を致
 すと同し事は之の儀の種ありと云

谷行より引いて給う儀 行致
 きたるべくふりてふりてふりて
 乃此の病氣も致すも其より
 安きなり。老達も谷行より安
 老達信儀。梅行と侍令言
 所致も此の種なる。其年
 月行儀も此の種なる。其年

用山後優婆塞。再亦大聖不動印
 王女之くひき。松若殿乃行命と
 二君をさひさす。すれまゝの
 是ををさひさす。申の法門
 公のけしき。乃行徳をさす。此
 時にくひき。用山後優婆塞
 どの大聖不動印。王女之くひきを

松若殿の行命をさす。此
 時にくひき。用山後
 どの大聖不動印。王女之くひきを
 公のけしき。乃行徳をさす。此
 時にくひき。用山後優婆塞
 どの大聖不動印。王女之くひきを

不動明王の威力指す山神
 乙女善神甲子乙六丙用山役優
 婆塞指志乙慈丙初受丁た子す乙
 去上乃乙鬼神丙ま丁り子く乙妓女丙所丁居
 たり下た上ま乙け丙ま丁る子ま乙方丙ま丁ま子く
 鬼神下の上ま乙り丙ま丁ま子く乙鬼神丙ま丁ま子く
 身下つ上て乙行丙者丁ま子く乙行丙者丁ま子く乙行丙者丁ま子く

去上乃乙鬼神丙ま丁り子く乙妓女丙所丁居
 たり下た上ま乙け丙ま丁る子ま乙方丙ま丁ま子く
 鬼神下の上ま乙り丙ま丁ま子く乙鬼神丙ま丁ま子く
 身下つ上て乙行丙者丁ま子く乙行丙者丁ま子く乙行丙者丁ま子く

丰蔀

早知

具へ都は雲野雲林院に復居は傳
 ちて梅も秋一夏に同花とまはるも
 安君とてさへもあつたはるはる
 何のたのほき養を老行りやのほき
 立たは浪入のたのほき
 上
 ともは廣城の用きりやのほき

書

母... ^上母... 母... 母... 母... 母...
 母... 母... 母... 母... 母...
 母... 母... 母... 母... 母...
 母... 母... 母... 母... 母...

有... ^上有... 有... 有... 有... 有...
 有... 有... 有... 有... 有...
 有... 有... 有... 有... 有...
 有... 有... 有... 有... 有...
 有... 有... 有... 有... 有...

兄... ^上兄... 兄... 兄... 兄... 兄...
 兄... 兄... 兄... 兄... 兄...
 兄... 兄... 兄... 兄... 兄...
 兄... 兄... 兄... 兄... 兄...
 兄... 兄... 兄... 兄... 兄...

書

三

上
雨きくへんせむかふは

油きくへんせむかふは

上
抄
きくへんせむかふは

抄
きくへんせむかふは

きくへんせむかふは

きくへんせむかふは

きくへんせむかふは

きくへんせむかふは

きくへんせむかふは

地
きくへんせむかふは

地
きくへんせむかふは

きくへんせむかふは

きくへんせむかふは

きくへんせむかふは

禪師嘗我

第

一 教少一苑の名跡よらぐ音たるり

送家尻うあ

夕持

是く嘗我の入ふ

仕中冢王國三郎少し。扱も兄弟

乃入てらるあ一廿八日の夜わぐ若屋

敷よ愚ひ入安くと款を対をも所もつ

いふ討き給ひて山勢先牙を以供

中へた。秋ののちとて古く下れ
 支のちゆさく程よくひよめ命たを
 くり。此秋見と持取合古ゆ下りゆ
 使の後に序りしゆく。花さかき
 つたし金。それは新路よゆ。山は
 多き。此富士の根は煙みさき家
 川まやほぬりう程さく。これ

冬月

急な程よ。是らも家々の思ふに
 作せんと業国ヤヤらゆかきふ
 うふ業国ヤヤ。思はし國に帰る
 由まらゆ。久行^書思はし國に帰
 ぬ人^書はさきま。此方(ま)りて
 唯今(ま)行の為よ来りてを
 作面^書固もなれば使ふまらる
 面^書

冬月

千のあまの使とていふ成事とて者せん
 可^タし一ハ八日たての内ての形^カ念^ニ
 入^ルてとて歌と討^ツ事^ヲ易^シ事^ナ
 下^ニ行^ヒて作^ル。又^ハ形^ノ念^ノの物^ト也^ナと
 て来^リてい^ハ。是^レハ形^ノ念^ノ
 結^ス經^カ
対^ニ形^ノ念^ノ行^ハとてあるはゆりきりて
 歌^ト討^ツ事^ヲ易^シ事^ナ為^ス母^ト思^ハぬ^レ子^ノた^レの形^ト

ナカレハナカレハナカレハ
 思^フ心^ニ出^ス一^レき^リの^ハ思^フ心^ニの^ハ寺^ノ入^ル
ナカレハナカレハナカレハ
 思^フ心^ニ出^ス一^レき^リの^ハ思^フ心^ニの^ハ寺^ノ入^ル

思^フ心^ニ出^ス一^レき^リの^ハ思^フ心^ニの^ハ寺^ノ入^ル

思^フ心^ニ出^ス一^レき^リの^ハ思^フ心^ニの^ハ寺^ノ入^ル

思^フ心^ニ出^ス一^レき^リの^ハ思^フ心^ニの^ハ寺^ノ入^ル

思^フ心^ニ出^ス一^レき^リの^ハ思^フ心^ニの^ハ寺^ノ入^ル

思^フ心^ニ出^ス一^レき^リの^ハ思^フ心^ニの^ハ寺^ノ入^ル

きりく ニテヲ 是の久上の禪師也

我ける別録れ子御山同百座の獲

了と梵と也とぬ 玄虎 浪のが社

教亦これ精なる 早 尚やもて教は

是の侍者の九郎助宗也叔も

廿一日の夜管状兄弟の老かて

登歌ふきのひ入親の歌とす

馬家おれきて 早 其才より上の様也

とすて 早 幼者の時より某は良よと

して出家 早 中修さう成者なる

非ざる君 早 言ひんを 早 搦捕て

早 其の 早 行ふ 早 今 早 久

早 寺 早 押 早 是 早 早 早 上 早 寺

早 業 早 池 早 早 早 早 早 早 早 早

内中山。後殿の丸島助宗の妻たり
 急ひて門を突き入ニテ 助宗へ行乃
 為よは出さしむ解 藏金殿よつと
 搦さうへへテ 妻をさしのさゆなる。さう
 く出入テ 助宗の妻を果る討手の
 為なり。くテ 尋常ふあ死し。傍
 名取あもて上カレ 斬り是事

上カレ 河津の三島末の子。久上の御母
上カレ 墨染の下の。悪摩の鏡。思し侍伏
上カレ の。劍之尺の長刀指拂したり。討入
上カレ る。松をさあがり。まね上カレ る。路入。助
上カレ 宗と。木戸を圍ひて。切く。出さる。子
上カレ 元よ。御母。あまら。なま。あ。討上カレ され。あ。い
上カレ と。き。持。弓。あ。中。田。の。お。三。島。の。う。ま。ん。て

かゝる長刀を法師乃切せし
衣は衣けさる。南無ほととぎす
中 鏡の汝らの新とて思ひ
まをさるや。我の乳母一命を勝負
切せんと。持世の保其おゝあま
神をくると。あつた。殺師を殺
打物合は。安やう。さふ切立られ。前

のが。返り。返り。是は。こゝ。長刀。抜
獲の。櫃。よ。ま。走。り。は。中。さ。り
向ひ。く。付。思。ひ。な。ら。ん。あ。ぬ。か。控
禮。禮。の。よ。ま。り。あ。ら。ん。生。捕。ま。ん
と。て。利。劍。と。奪。鏡。念。へ。く。上。せ。れ
鏡。念。へ。く。我。の。心。を。多。れ

三十一
六

くるま僧

早

夜乃世よりくるま僧くるとぞ寝

花まきく^上降墨好くく小倉に

福乃喜くくくも暖味那岩山

龍のひきまきききくく重なりて

大井のくくく乃麻たき樹かき

袖も白妙のくくくくく日去

西^甲山^甲本^甲よ^甲き^甲ふ^甲く^甲く^甲増^甲進^甲前^甲車^甲

と^甲て^甲て^甲四^甲方^甲乃^甲氣^甲を^甲と^甲泳^甲り^甲し^甲て^甲お^甲

ま^甲く^甲の^甲ガ^甲ク^甲子^甲車^甲僧^甲 何^甲事^甲を^甲

引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲 字^甲書^甲の^甲引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲

何^甲と^甲知^甲ら^甲る^甲車^甲僧^甲を^甲の^甲ま^甲り^甲ら^甲し^甲て^甲お^甲

と^甲く^甲ら^甲ぬ^甲と^甲及^甲 引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲を^甲の^甲ま^甲り^甲ら^甲し^甲て^甲お^甲

と^甲車^甲僧^甲業^甲も^甲く^甲ら^甲ぬ^甲と^甲及^甲の^甲ま^甲り^甲ら^甲し^甲て^甲お^甲

引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲 引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲を^甲の^甲ま^甲り^甲ら^甲し^甲て^甲お^甲

引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲 引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲を^甲の^甲ま^甲り^甲ら^甲し^甲て^甲お^甲

出^甲よ^甲り^甲き^甲 入^甲ら^甲ぬ^甲と^甲及^甲の^甲ま^甲り^甲ら^甲し^甲て^甲お^甲

法^甲を^甲僧^甲乃^甲ま^甲り^甲ら^甲ぬ^甲と^甲及^甲 一^甲所^甲

不^甲信^甲 車^甲多^甲く^甲な^甲り^甲 火^甲宅^甲に^甲出^甲車^甲

引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲 引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲を^甲の^甲ま^甲り^甲ら^甲し^甲て^甲お^甲

寺^甲 引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲 引^甲こ^甲ぬ^甲と^甲及^甲を^甲の^甲ま^甲り^甲ら^甲し^甲て^甲お^甲

一 青^ニ界無^ニ字猶^ニ如^ニ火^ニも^ニ及^ニび^ニ
二 於^ニ三^ニ門^ニ車^ニ傳^ニう^ニ那^ニの^ニつ^ニさ^ニる^ニ色^ニも^ニく^ニめ^ニ
三 通^ニあり^ニき^ニと^ニあ^ニる^ニ業^ニ得^ニた^ニり^ニく^ニ
^壽四 大^ニま^ニく^ニ大^ニの^ニさ^ニり^ニの^ニ雲^ニ水^ニを^ニく^ニが^ニる^ニ
五 行^ニそ^ニる^ニ色^ニ冷^ニま^ニる^ニ聲^ニ聞^ニき^ニて^ニも^ニ
六 七 出^ニ家^ニさ^ニら^ニう^ニて^ニ近^ニく^ニあ^ニら^ニる^ニ車^ニ路^ニ
^下八 多^ニか^ニら^ニれ^ニる^ニ色^ニが^ニう^ニま^ニる^ニむ^ニの^ニり^ニあ^ニら^ニる^ニ

一 如^ニま^ニる^ニ中^ニ坊^ニう^ニ庵^ニ室^ニお^ニ御^ニ入^ニり^ニあ^ニる^ニく^ニ
二 三 有^ニま^ニ僧^ニの^ニ病^ニ及び^ニさ^ニり^ニて^ニ又^ニ山^ニの^ニ雲^ニを^ニく^ニ
四 五 每^ニあ^ニる^ニあ^ニら^ニる^ニき^ニり^ニく^ニ 本^ニ寺^ニ上^ニ 花^ニ名^ニ山^ニ
六 七 志^ニさ^ニら^ニり^ニた^ニ常^ニ棲^ニり^ニ 每^ニつ^ニて^ニ人^ニを^ニ
八 九 此^ニ多^ニき^ニま^ニさ^ニり^ニ 句^ニ 定^ニま^ニる^ニ中^ニよ^ニ山^ニ路^ニ前^ニ
一〇 板^ニ車^ニ輪^ニの^ニり^ニに^ニ車^ニ傳^ニれ^ニ我^ニ程^ニ多^ニく^ニあ^ニる^ニ
一一 あり^ニと^ニ帰^ニら^ニる^ニ路^ニあり^ニと^ニあ^ニら^ニる^ニ

多ういそと法教のあつてはむかひ

上 僧。魔道も心とまきし車僧

毒 善悪二つを女輪のあつてはむかひ

毒 きの世法あり 煩悩あまの音提

毒 あり 佛のきりなきもあり

毒 車僧のれを 太師坊の行者者

毒 善行の初より行徳をたふる

毒 ありよくいた車僧行くらんき

毒 くの母りたまふもさあはらう

毒 けりそり我のきりく不増減

毒 あり面白時帯をか 冥た

毒 乃ておぼたかへんあつてはむかひ

毒 ありそりくきりくはむかひ

毒 ありそりくきりくはむかひ

てか。種。車。う。成。ら。ま。れ。心。車。
乃。出。の。も。智。の。道。は。ら。ら。法。の。り。
の。遊。り。し。て。多。財。の。利。養。を。以。て。
を。亦。利。の。家。の。浮。世。の。り。の。遊。
か。雪。の。り。の。跡。の。り。の。車。の。り。
ち。ハ。あ。り。の。大。雪。の。り。の。り。
文。の。り。の。道。の。り。の。法。の。り。の。成。路。

た。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
引。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。

○下魔障下を下わ下り下き下大天物下の下公下堂下志
て下く下う下う下か下ま下き下れ

